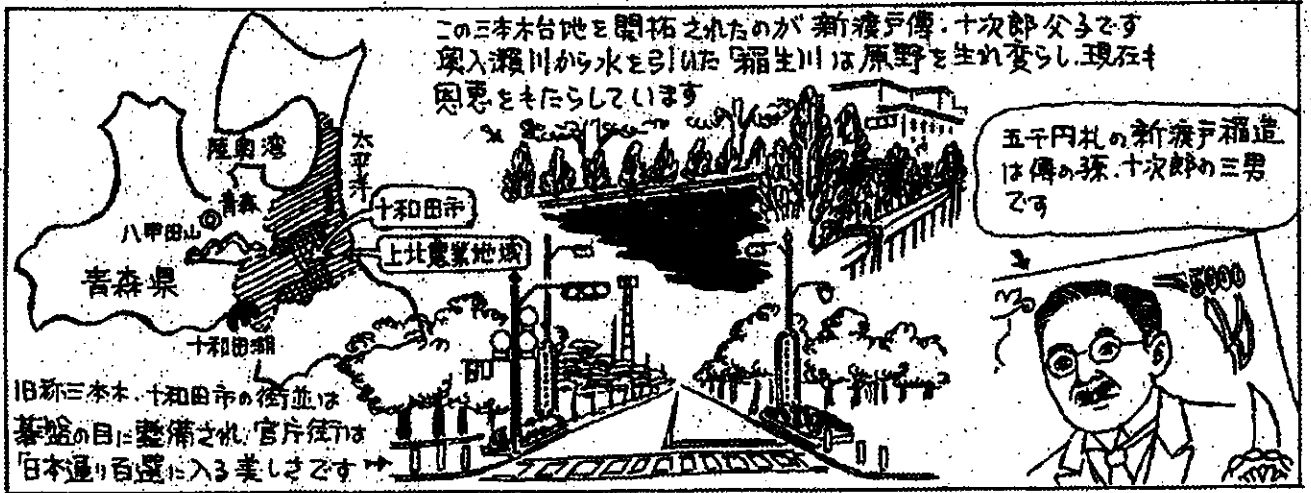


まんが 土地改良偉人伝

出典 一般財団法人日本土壌協会

(圃場と土壌 1992 年 9 月号・土地改良新聞 2019 年 9 月号)



青森県土地改良偉人伝

新渡戸傳・十次郎親子と十和田市

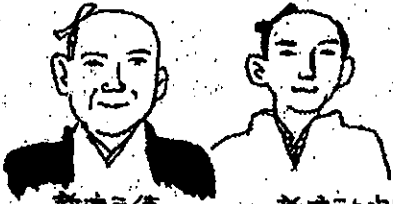
(寛政5年(1793)～現在)

(参考資料)

田を興す十和田市の大地、十和田市教育研修センター
新渡戸傳翁と三本木原十和田市開拓のしるし・水巻藤影全
新渡戸傳十次郎親子
新渡戸傳・十次郎親子三本木原開拓の歴史
青森県土地改良史
奥入瀬川左岸地帯、箱生川二期地帯が、治水事業推進
平成24年度 上北地区改良事業の成果
広野 箱生川
奥入瀬川、箱生川、上北地区改良事業の成果
竣工記念誌

(指導・協力)

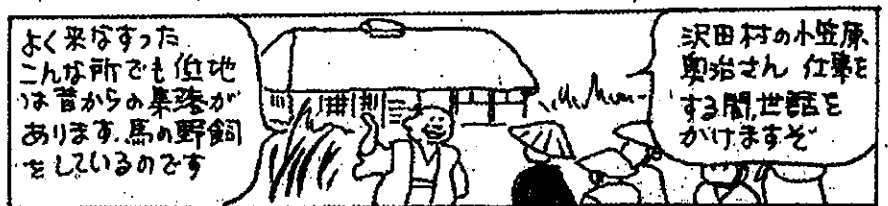
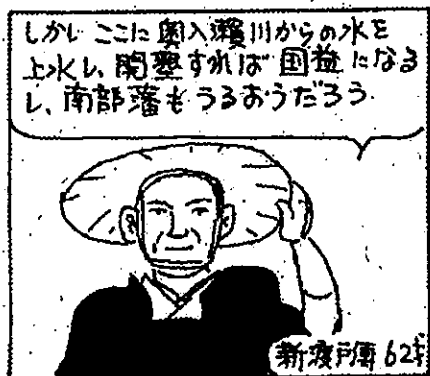
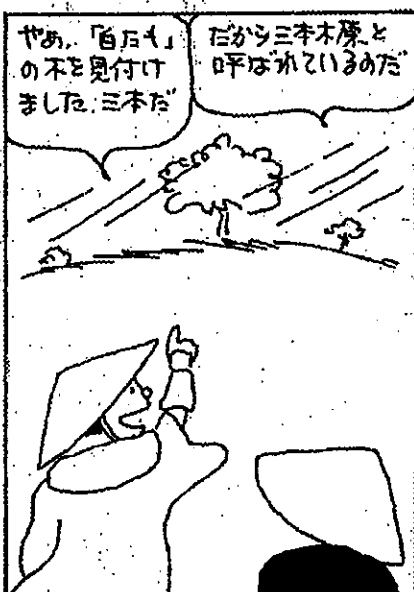
十和田市新渡戸委員会 社会教育課
文化係 鈴木十次郎 保良
箱生川土地改良区
水野好路 理事長 工藤正孝 副理事長
上北地区改良事務所 米塚功 所長 菅原
青森県電気建設課
東北建設局建設部 監修課
十和田市立 新渡戸記念会



新渡戸傳
人工川箱生川の開削工
に着手、十和田市発展の
基礎を築く

新渡戸十次郎
傳の長男、十和田
市を区画した近代
都市計画先駆者

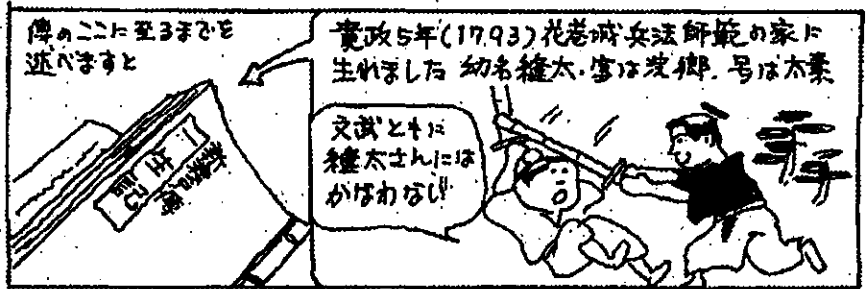
まんが 水谷 たけ子





書きものですが

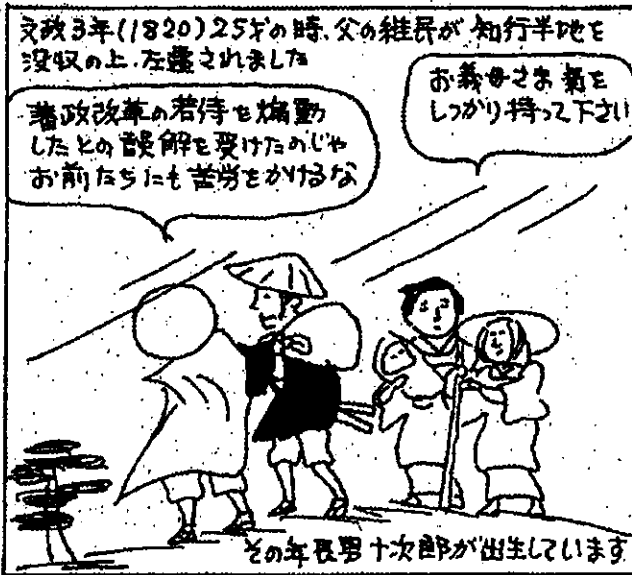
私日記3巻もつけて
いるのです



傳のこゝろまで
述べますと

寛政5年(1793)花巻城兵法師範の家
に生まれました 幼名維太、字は茂郷、号は木葉

文武とは
維太さんには
かばわなげ



寛政5年(1820)25歳の時、父の維民が知行半地を
没収の上、左遷されました

藩政改革の若侍を煽動
したとの誤解を受けたのじゃ
お前たちにも苦勞をかかへな

お義母さま氣を
しっかり持って下さい

その年長男十次郎が出生しています



傳 32才

えー、十和田湖に
船を浮かべるなんて
湖の神の罰を受け
ますぞ

算文を嗜む？
今までの因習を
変えます



ひやー十和田湖
初めての出来事だ

子ノロで堰上げ
奥入瀬川を堰水させ
材木の船積みします

十和田湖の
新堰でさん
繁盛ですよ



傳は父の生計を助けようと、武士から小間物売りに
して、材木商を営みます

江戸へひば材
を運ぼう



江戸に大火があったので糧
が売れた、次は米と清酒
の見込み商売だ



46才
大金を手に入れた、これ
以上欲を出しても仕合
がなから花巻に戻
って再仕官しよう



勘定奉行となり、各地の
開墾を成功させて来た
色々、負債もさせて貰った

江戸に居る
十次郎がさぞ



父上、私は元気で江戸
勘定奉行と勤めています

安泰じゃ



本日集っていた石いたのは
三本木原開拓工事
のことです

我々は同意者です



南部藩は財政に
行き詰ってある
金は出さないが
開拓に成功した
者は十分に登用
すると

十年士制度

はい私財を
投げうって

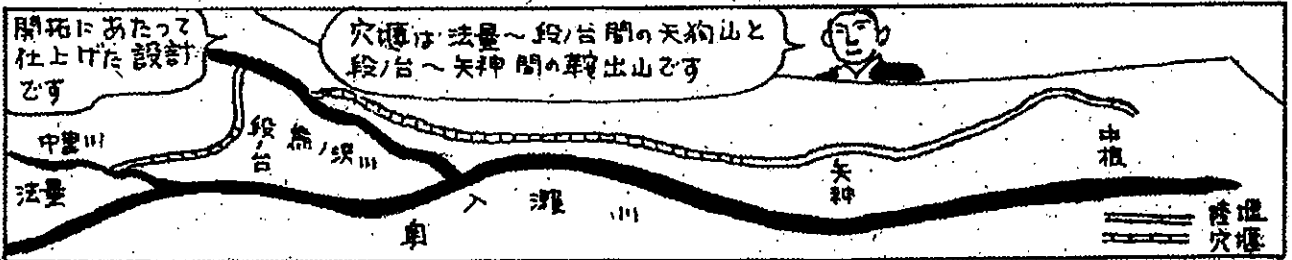
寛政2年(1790)
開拓許可のお墨付きと
戴いたまが資金集めた

また霖雨で今年は凶作
だな。大豆、そば、稗以外
に米が収穫出来るように
開田を急ごう

開墾を志して
集って来ました

資金を出せば台地に
水が来た時は土地を
下さるぞうですね

これが開拓請定
書です。賛成なさ
った上は署名と
捺印を下さい



寛政3年(1856)

山の神に 工事の無事を
祈願しよう

それ、上流から 第一撃

かれかれは
工場の熟練者だ

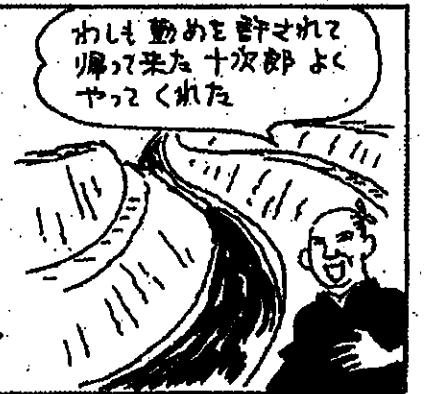
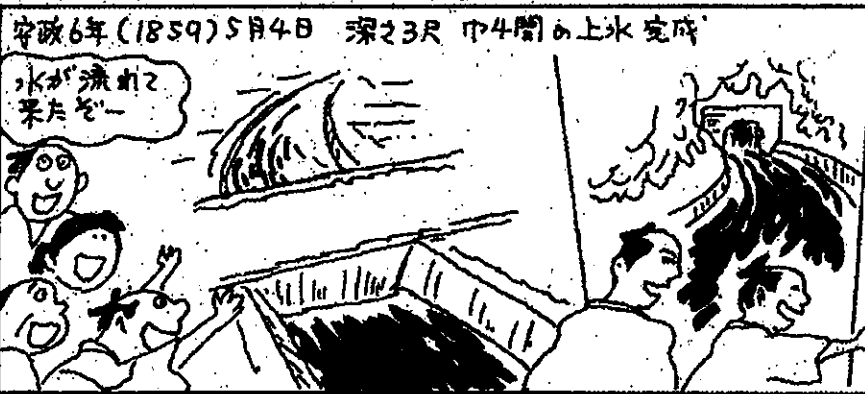
ようし、潜水者達は頭領の
指示に従って下さい

下流からも 第一歩だ

穴堰の掘り方は各組に分けて横穴を掘り、各組の受持分担により
上流と下流を掘り進みました

上から見た断面

口食い違いが
出来ねば
よいが……



万延元年(1860)

これから如何に人を集めるか

父上、かねてより十二町四オの往行計画が出来上りました

三本木平明業の記です

お、盛岡から1丁目、2丁目、3丁目と整然と区画するのだから、実際に建設を進めて行こう

少し派手なようだが、まあいいだろう

周辺には防風林を設定

三本木新駅

池二階の柱着たな

南郷藩主さまがお見えになるので、お泊り所の柱屋を築造しました

人江川を、稻生川橋を稻生橋と命名しようぞ

い、名をえた

まが産業

養蚕

馬鈴薯

華園

入植者が増えました

傳は各地から教師を招き、続々人が集って来ました

学校

教員は大層だ

寺 神社

清月寺

稻荷神社

この人たちは?

あたいたちも、賑やかに人を呼びますわ

